

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合

ホームページ

平和と憲法九条を守りぬく国民的な運動に立ち上がろう

「過大・過密」「教室・教員不足」解消、児童生徒増に見合う抜本的増設を実現しよう！

みんなでつくる分会活動を推進し、組織拡大を大きくすすめよう！

2026年度大障教定期大会

大障教は5月16日、定期大会を開催しました。荒谷書記長が経過報告および運動方針案を提案し、討論では8分会5専門部の13人が発言しました。すべての議案が圧倒的多数の賛成で決定されました。大会には、大阪の障害児教育をよくする会の副会長が連帯のあいさつをおこない、メッセージが多数寄せられました。

子どもたちのために「平和な社会」を



あいさつする西面委員長

切さをみなさんと確認しあいたい。平和な社会でなければ、障害のある子どもたちの生活や成長・発達を保障することはできないと述べました。

大会あいさつで西面委員長は、今なお緊迫した事態にある世界情勢にふれ、米国の国連憲章違反・国際法無視のイランに対する先制攻撃に対して、高市首相の事実上支持をする態度、武器輸出の全面解禁など、断じて容認できない。憲法9条の値打ち、「平和」の大

憲法と子どもの権利条約に立脚した 障害児教育の実現を

荒谷書記長は、経過報告と運動方針案の提案をおこないました。支援学校増設運動では、PTAとして署名のとりくみが増えたこと、各ブロック・地域での署名宣伝や「決起集会」に父母の積極的な参加があったことにふれ、「父母との共同のひろがり」が、運動を前に進めていることに確信をもち、さらにおおきくひろげていこう」と呼びかけました。

当面のとりくみとして、

①大阪の障害児教育をよくする会と共同した教育条件整備の運動、②教職員増を求める署名、③教育のつどいや発達についての連続講座の開催、④憲法9条改悪に反対する請願署名のとりくみなどを提起し、すべての分会が力を合わせて対話

をすすめる、年間50人の組合員拡大の早期達成を実現しようと呼びかけました。



声高らかに力強い団結がんばろう

最後に、大会決議「『戦争か平和か』の歴史的岐路に立つ今、平和と憲法九条を守りぬく国民的な運動に立ち上がろう」を提案し、採択されました。

また、大会では参加の代議員から平和へのメッセージを多数寄せてもらいました。

会場で寄せ合った 平和メッセージ



大阪府立障害児学校教職員組合 大阪市天王寺区東高津町7-11 府教育会館704号 TEL 06-6765-8904 FAX 06-6765-8905

書記局の ひよこ

最近、我が家に新たな家族が増えた。「わんちゃんを飼いたい！」という次女の夢が、いろいろな縁とともに叶い、保護犬を迎え入れることとなった。

わんちゃん存在は嬉しい変化をもたらしてくれている。それは、3人の子どもたちが、嬉しいことだが自分の世界が広がり、すれ違う日々が増えてきていたところに、わんちゃんを中心に自然と家族が広がる機会が増えたことだ。わんちゃんの一挙手一投足に心癒され、笑顔がこぼれる幸せな時間をたくさんもらっている。

犬、猫、馬等の動物がもつ「心を癒す力」は、医療・教育・福祉の場において近年注目されている。医療現場において、小児がんや重い病気の子どもに寄り添い、医療チームの一員として活動する「ホスピタル・ファシリテーター」が、筑波大学附属病院で2027年度に国立大学病院として初導入を予定しているというニュースを最近読んだ。

附属病院HPには、ファシリテーターは、「そばに寄り添うことで、子どもたちの不安をやわらげ、治療に前向きに取り組む力を引き出す」「言葉がなくても気持ちが通じ合う、子どもたちにとって心強い存在になる」と記載されている。我が家のような環境でも感じる動物の「心を癒す力」は、小児がんや重い病気に向き合う子どもたちにとってどれほどの心強い支えになるかは計り知れない。しかし、ファシリテーターは診療報酬の対象外のため、クラウドファンディングで多くの支援者に支えられてプロジェクトとして始動している。今後、一人でも多くの子どもたちの心が癒され、笑顔で過ごせる時間が増え、希望を持てる未来につながることを願っている。

一人じゃないよ、一緒に頑張ろう！

北河内ブロック合同新歓教研「そっだー先輩に聞こー！」

4月25日(土)、北河内ブロック合同新歓教研「そっだー先輩に聞こー！」をもちき、6分前から2人が参加しました。初任から数年目の「ちよと先輩」の発表者が初任者の頃を振り返り、自身の経験や悩み、支援教育への思いを語りました。会場には、今年初めて支援学校で教員になった方からベテランの教職員まで幅広い層が集まり、互いの経験を共有しながら学び合い、温かな雰囲気がありました。



心に残る同僚の言葉や、子どもの姿を語る発表者

参加者の感想

- 4月から知めてのことばかりで焦りや不安も大きくなっていたのですが、先輩のお話を聞いて、焦らずに周りの先生方に相談することの大切さを改めて実感できました。自分が今悩んでいることも、同じように経験されてきた先生の話のきいてすごくホッとした気持ちになりました。
- みんなが最初感じていることは同じなんだと感じ、少し安心した気持ちになりました。また、たくさんの先輩教員に囲まれて心強く感じました。
- 今バリバリ仕事をされている先生も、はじめは不安もあったんだと思い、共感できました。
- 私の今の状態と重なっている部分があり、少し前向きになれました。
- 今年で3年目ですが、1年目の気持ちを思い出す良い機会になりました。
- 子どもたちとの向き合い方、参考になりました。
- 自分自身の若手の頃を思い出しながら職場の若い世代の先生たちを支えたいと思いました。
- 新しい先方へのステキなメッセージがつかまりました。

一人目の発表者は支援学校勤務6年目で、講師時代から現在までの経験を振り返りながら、「子どもと関係をつくることの大切さ」を語りました。

高校時代に見学した支援学校で、子どもの気持ちに寄り添い、表情やしぐさから思いをくみ取る先生方の姿に感銘を受け、特別支援教育の道を志したといういます。しかし、現場に立つた当初は、不安と戸惑いの連続。「着替えの支援中に児童から上履きで頭をはたかれ、『これが支援学校か』と、衝撃を受けました」と笑いながら振り返りました。

当時、ベテランの先生から「まずは子どもとたくさん遊んで」「子どもたちは力を持っていて、先生はそれを引き出す手伝いをしているだけ」と言われたことが、今も心に残っていると話しました。「子どもの力を引き出すには、まず関係づくりが大切だと、改めて感じています」と語りました。



参加者それぞれが経験や感想を交流しました

2年目には、不安が強く授業参加が難しい児童への支援に悩んだ経験も紹介されました。授業の流れを視覚化するなど試行錯誤を重ね、少しずつ参加できるようになったことを「支援を考える面白さを感じた瞬間



悩みの日々から学んだことを明るく語る発表者

続いて二人目の発表者は初任から2年目の方で、まず参加者に「一人で悩みを抱え込まないでほしい」と呼びかけました。初任時代は悩みの連続で、「毎日泣

「『〇〇させない』と焦る必要はない。子どもにとって一番大切なことは何かをまわりの先生方と相談しながら、その子に合った支援を考えていけばいい」と、同僚との対話の大切さを伝えました。

「『〇〇させない』と焦る必要はない。子どもにとって一番大切なことは何かをまわりの先生方と相談しながら、その子に合った支援を考えていけばいい」と、同僚との対話の大切さを伝えました。

一人じゃないよ！一緒に頑張ろう！と伝えたい」と、自身の経験から実感を込めて、エールを送りました。

経験年数や立場は違っても、「子どもを中心に考える」という思いは共通しています。参加者同士が悩みや実践を語り合う中で、支え合いながら成長していく先生方の姿が印象的な学習会となりました。

(寝屋川支援分会 佐野 武尊)

集まれば元気！分会のとりくみ

生野聴覚支援学校分会では、4月1日に新転任の方々を歓迎して昼食会を開きました。近くの小さな定食屋さんにお弁当を30個注文すると、午前中お店を閉めて用意してくださいました。歓談したり一人ずつ自己紹介したりして、お互いを知る機会になりました。

勤務日の分会員全員が集まり、新しくお迎えした17人の皆さんが参加して下さったことがとても嬉しかったです。(生野聴覚支援分会 前田 綾)

